

1 構想策定の背景・目的

(1) 目的

本市の街路市は高齢化による出店者の減少や、利用者の減少などの問題を抱えている一方で、高知の観光資源としての人気が高まっている。これらの時勢の変化に対応し、街路市を将来にわたり維持発展していくための指針となる新たな構想を策定するもの。

(2) 策定に向けた取組

- ①街路市活性化推進委員会での意見
- ②各種アンケートの実施
日曜日利用者アンケート、日曜日通行量調査、観光業者ヒアリング、市民ウェブモニターアンケート、出店者アンケート
- ③街路市利用者との座談会（10月19日実施）



街路市利用者との座談会

(3) 目標年次

時勢の変化に対応するため、構想期間は5年間とする（現構想は10年間）。

2 現構想の総括

【地元利用者、観光客、出店者、景観、教育・学び】の5つの視点で、10のプロジェクト、41の取組を展開した。

視点	主な取組
①地元利用者	<ul style="list-style-type: none"> ・市広報紙・マスコミへの情報発信 ・リーフレット・ポスター・SNSによる情報発信 ・食を通じた飲食店との連携 ・車いすの貸出（観光案内所等） ・アート創出（漫画家3名制作のポスター掲示）
②観光客	<ul style="list-style-type: none"> ・駐車場・トイレマップによる情報提供 ・外国人向けパンフレットの作成・配布（英語、中国語（簡体字・繁体字）） ・商店街との回遊性向上の取組（商店街でのチラシ配布等） ・手荷物預かり所の設置（出店者の独自サービス） ・ミニ観光案内所の設置 ・エコバックの配布 ・宅配支援（R3で終了）
③出店者	<ul style="list-style-type: none"> ・空き小間を活用した取組（休憩所・イベント活用） ・ボランティアによる出店サポート（大学生グループ等） ・「いち版」による出店者への情報共有 ・新規出店者の募集・開拓（規制緩和・れんげい等）

視点	主な取組
④景観	<ul style="list-style-type: none"> ・出店者によるごみ減量運動 ・街路市図の作成・配布
⑤教育・学び	<ul style="list-style-type: none"> ・お客様感謝事業の充実（市内保育施設へのお買物券配布） ・小学校等での街路市文化伝承（副読本・市内44校への街路市だより配布） ・高知商業高校・高知大学等の活動協力（開発商品の販売体験等）

3 現構想の評価

現構想における施策は、以下の指標を設定し、有識者で構成する「高知市街路市活性化推進委員会」によるフォローアップのもと、取組の進捗・効果に対して、意見を伺いながら着実に進めてきた。

	指標概要	従前値 (H26年度)	目標値 (R6年度)	実績値 (R6年度)
指標1	日曜市内の通行量 (単位:人/4回合計)	92,859	110,000	73,291
指標2	出店登録者数 (単位:店)	460	510	391
指標3	地元利用者数 (単位:人/回)	5,300	6,300	3,800
指標4	県外客の日曜日に対する「良い」印象 (単位:%)	69.3	90以上	91.5

指標3：指標1の日曜日通行量を基に、日曜日利用者アンケートにおける市内在住者の割合（21%）により算出

指標4：日曜日利用者アンケートにおける県外客の中で、日曜日をお勧めしたいと回答した割合（10段階中6～10を満足と評価）より算出

各視点での取組は、関係機関の協力もあり41の取組すべてに着手することができた。しかしながら、コロナ禍の影響や学生ボランティアグループの解散などの状況変化もあり、一部見直しや中断せざるを得ない取組もあった。多くの取組は必要性や好評を得ていることから、今後も引き続き実施することが望ましく、社会情勢の変化に対応しながら改善していく必要がある。

また、指標における実績値は、人口減少や社会情勢の変化など、様々な要因も影響したと推測され、全体として目標には及ばない結果となった。

4 街路市の現状

(1) 街路市の現状

日曜日	火曜日	木曜日	金曜日
 <ul style="list-style-type: none"> ・300年の歴史、約1kmに約300店舗が軒を連ねる。 ・市民の生活市であり、本市の重要な観光資源。 ・インバウンド観光客も多数。 	 <ul style="list-style-type: none"> ・上町の通り沿いの水路に戸板を渡しての出店。 ・客層は地元住民などの常連客。 ・近年、出店者の減少傾向が著しい(H26:43→R6:15) 	 <ul style="list-style-type: none"> ・日曜市に次ぐ人気で出店者も約60店舗と多い。 ・近隣ホテルとのコラボ企画なども実施。 	 <ul style="list-style-type: none"> ・高架下に店が並び、愛宕商店街に近い。 ・客層は地元住民などの常連客。 ・近年、出店者の減少傾向が著しい(H26:32→R6:14)

(2) 社会情勢の変化

- ・購買層の高齢化(若年層獲得の必要性)
- ・販売チャネルの増加(直販所・ネット販売等)
- ・レジ袋の有料化(R2.7~)
- ・新型コロナウイルス感染症のまん延(R2~)
- ・HACCP衛生管理の義務化(R3~漬物販売等)
- ・インバウンド需要の拡大(大型客船・台湾便)
- ・キャッシュレス決済の普及

(3) 街路市における変化

- ・出店者の減少(H26:460件→R6:391件)
- ・出店基準の緩和(加工品・グループ出店)
- ・販売品目の多様化(農家↓,加工品↑)
- ・れんげいこうち日曜日出店事業の開始
- ・おためし出店の仕組みづくり(テント貸出)
- ・街路市青年団の結成
- ・出店時間の短縮化(昼過ぎの閉店)

5 各種アンケート結果

(1) 日曜日利用者アンケート (R6年9月15・22・29日の3日間実施)

調査内容: 3日間のうちに日曜市を訪れた利用者の利用状況等を調査
 結果概要: 居住地の割合は、県外73%, 市内21%, 県内6%

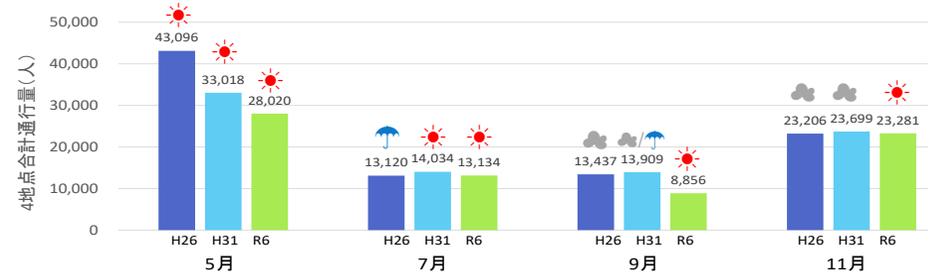
回答数
620件

- ・来市頻度は、初めて来たとの回答が最多(41%)
- ・来市時間帯は、7~8時台が最多(59%),
- ・食べ歩き商品, 駐車場, キャッシュレス決済の需要が高い



(2) 日曜日通行量調査 (R6年5・7・9・11月の各第1日曜日に実施)

調査内容: 5~9月に日曜市の4地点を通行する来場者数を調査
 結果概要: R6年度の通行量は、H26年度及びR元年度に比べ減少傾向



(3) 観光業者ヒアリング (R6年11月に実施)

調査内容: ツアー・ネット・インバウンド関係等の業者から意見聴取
 結果概要: 旬の食材や高知ならではの商品, どの店で買えるかの情報不足
 ・近隣トイレの案内が不十分, 個室(洋式)の数が少ない
 ・外貨両替所が少なく(2箇所)かつ手数料が割高, 海外ではキャッシュレス決済が常識
 ・午後は店が少なく, それに合わせた行程を組んでおり不便

事業者
数11件

(4) 市民ウェブモニターアンケート (R6年9月20~29日に実施)

調査内容: 事前にモニター登録した市民等の街路市の利用状況を調査
 結果概要: 「どの街路市にも行ったことがない」と答えた人は7%
 ・「日曜市に1年以上訪れていない」と答えた人は31%
 ・1年以上訪れていない理由は「駐車場・駐輪場がない」が最多
 ・休憩スペース, 駐車場, 食べ歩き商品の需要が高い

回答数
187件

(5) 出店者アンケート (R6年11月7日~19日に実施)

調査内容: 現状・課題に対する街路市出店者の認識等を調査
 結果概要: 街路市に出店する魅力(複数回答)については、「お客さんが喜んでくれる」が最多。次いで、「色々な人と話ができる」, 「自分の仕事や商品に誇りを持てる」など
 ・5年以内の廃業の可能性は「わからない」が44%で最多
 「ある」は16%で, 理由は「高齢のため」35%, 「テントの設営が大変」, 「後継者がいない」など
 ・現在の閉店時間は14時までが32%と最多

回答数
255件

6 街路市の魅力と課題

これまでの取組実績や各種アンケート結果をもとに、以下のとおり街路市の魅力と課題を整理した。

街路市の魅力

- 地元の新鮮で旬の野菜等が並び、手頃な価格で買うことで季節を感じられる
- 多種多様な商品が並び、素朴で生活感あふれる雰囲気
- 土佐弁が飛び交う出店者の温かさに触れ、人のつながりが生まれるコミュニケーションの場
- 300年の歴史があり先人が守り育ててきた「街路市文化」
- 独特のテントが並び立つ景観であり、高知の魅力を象徴する観光資源
- 子どもたちによる買い物体験、出店体験など生きた学びや社会貢献ができる場

街路市の課題

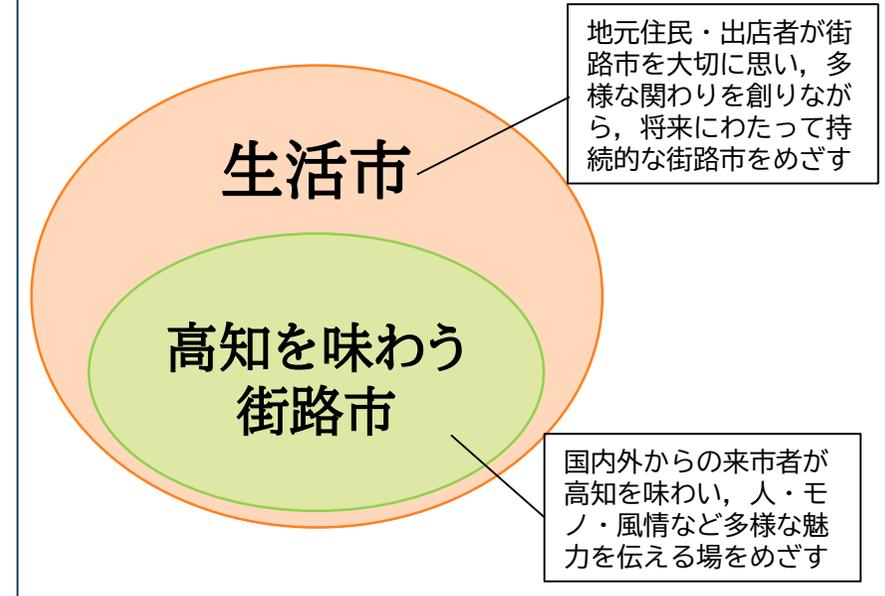
- 全体的な出店者の減少（高齢化、後継者不足、農産物の新規出店者の減）
- 特に火曜市・金曜市の出店者の減少
- 出店におけるハードル（テントの確保、出店基準）
- 地元利用者の減少、高齢化
- 観光客が必要とする情報が届いていない（トイレ、出店者情報など）
- インバウンド観光客への対応が不十分（言語対応、購入できる商品の制約）
- キャッシュレス決済の不十分
- リピーターの確保
- 出店時間の短縮化（朝市化の傾向）



次期構想では、各視点を考慮しつつ、魅力はさらに磨き上げ、課題については時代の変化に即した対策を講じながら解決に向けて取り組む

7 次期構想の基本理念

持続可能な街路市



基本的な考え方

- ◆ 生活市であることを念頭に、「重要な観光資源」でもあることを意識した取組が求められる
- ◆ 行政だけでなく、出店者や関係団体と協力しながら、将来にわたって街路市を守り発展させることで「持続可能な街路市」をめざす
- ◆ 宿泊施設や近隣商店街、街路市を愛する方々など、多様な関わりを深める
- ◆ 教育機関と連携し、学生や子どもたちに街路市に親しんでもらうきっかけをつくる

8 活性化に向けた将来像・基本方針・主な取組

	方向性・課題	将来像	基本方針	主な取組
生活市	<p><方向性> 地元住民・出店者が街路市を大切に思い、多様な関わりを創りながら、将来にわたって持続的な街路市をめざす。</p> <p><課題> ・全体的な出店者の減少（高齢化，後継者不足，農産物の新規出店者の減） ・特に火曜市・金曜市の出店者の減少 ・出店におけるハードル（テントの確保，出店基準） ・地元利用者の減少，高齢化 ・リピーターの確保 ・出店時間の短縮化（朝市化傾向）</p>	(1)出店したくなる街路市	◆出店しやすい環境づくり	<p>拡充 お試しテントの積極的な貸出</p> <p>NEW チャレンジ出店の実施</p> <p>拡充 出店基準の見直し（酒類販売など）</p> <p>NEW 専門アドバイザー等による助言・セミナー開催</p> <p>NEW 出店サポートの検討（テントの代理設営・撤去）</p>
		(2)古き良き伝統が守られている街路市	◆街路市文化を後世に残す	NEW 街路市のアーカイブ動画制作 ・コミュニケーションの場としての意識付け
		(3)気軽に立ち寄りたくなる街路市	◆地元利用者を増やす	NEW 野菜・食材を使った料理教室開催 ・商店街との回遊性向上のための取組
		(4)安心・安全の持続的な街路市	◆街路市の安全管理と維持	NEW 出店者の情報共有手段の確立 NEW 企業版ふるさと納税の活用・財源確保 NEW 営業時間の明確化
高知を味わう街路市	<p><方向性> 国内外からの来市者が街路市で高知を味わい、人・モノ・風情など多様な魅力を伝える場をめざす。</p> <p><課題> ・観光客が必要とする情報が届いていない（トイレ，出店者情報など） ・インバウンド観光客への対応が不十分（言語対応，購入できる商品の制約） ・キャッシュレス決済の不十分</p>	(5)誰もが知っている街路市	◆情報発信・街路市のPR強化	<p>NEW 地域おこし協力隊の任用</p> <p>NEW 街路市150周年企画の検討（令和8年度）</p> <p>拡充 ホームページの充実，SNSの効果的な発信</p>
		(6)高知といえば「街路市!」となる街路市	◆観光・インバウンドを意識した取組	<p>NEW 休憩所の暑さ対策</p> <p>NEW 出店者情報・トイレ等の案内表示の充実</p> <p>NEW キャッシュレス決済の普及促進</p> <p>NEW 外国語対応可能な団体への協力要請</p>
		(7)学びの場としての街路市	◆子どもや学生の関わる機会を増やす	NEW 構想を学校の副読本に活用 ・出店体験の積極的な受入れ ・お客様感謝事業の実施
		(8)多様な連携によりつながる街路市	◆街路市への関わりを増やす	<p>・街路市の出店者組合，青年団等との連携</p> <p>NEW ホテル等の観光事業者との連携</p> <p>拡充 イベント出店の積極的な受入れ</p> <p>・れんけいこうち日曜市出店事業</p>

9 活性化に向けた主な取組

(1) 出店したくなる街路市 ◆出店しやすい環境づくり

NEW 拡充 お試しテントの積極的な貸出

NEW チャレンジ出店の実施

新たに街路市へ出店する上で「街路市テント」の確保が課題の一つとなっていることから、出店当初にテントの貸出を行うことにより、出店時のハードルを下げ、出店しながらテントの確保を行えるよう支援する。また、これまで実施してきた「れんけいこうち日曜日出店事業」を日曜日以外の曜日でも出店できるようにすることで、通常の出店に向けたチャレンジ出店として広く活用してもらう。



(2) 古き良き伝統が守られている街路市 ◆街路市文化を後世に残す

NEW 街路市のアーカイブ動画制作

300年にわたる街路市の歴史・文化を紹介する中で、出店経験が長く街路市文化を支えてきた出店者と、これからの街路市を担う若手の出店者を取材するなど、「人」にフォーカスを当てた動画を制作し、広く視聴してもらう。



(3) 気軽に立ち寄りたくなる街路市 ◆地元利用者を増やす

NEW 野菜や食材を使った料理教室の開催

旬で新鮮な野菜などの食材を街路市で購入し、飲食店や調理師の協力のもと、料理教室を開催し、日曜市の商品の価値を高めるとともに、リピーターになってもらう。



(4) 安心・安全の持続的な街路市 ◆街路市の安全管理と維持

NEW 閉店時間の明確化の検討

街路市は、近年、出店時間は短くなり、昼過ぎには閉店する出店者が増え、朝市化が進んでいる状況である。出店数が減ることで車両の誤進入につながる恐れがあることから、例えば閉店時間を14時以降とするなど、出店者の意見を聞きながら明確にするよう検討する。



(5) 誰もが知っている街路市 ◆情報発信・街路市のPR強化

NEW 地域おこし協力隊の任用

拡充 ホームページの充実、SNSの効果的な発信

街路市は本市独自の文化であり、重要な観光資源であることから、さらなる魅力を再発見し発信していくために、県外からの移住者を地域おこし協力隊として任用し、外からの視点を生かすとともに、街路市のホームページを充実させ、SNSの効果的な投稿を行うことで、情報発信の強化に取り組む。



(6) 高知といえば「街路市！」となる街路市

◆観光・インバウンドを意識した取組

NEW キャッシュレス決済の普及促進

NEW 出店者情報・トイレ等の案内表示の充実

近年、本市へのインバウンド観光客が増えており、街路市においても同様に外国人は多く訪れることから、商品の購入を容易に行えるキャッシュレス決済の普及に取り組む。

また、出店者・商品の情報やトイレの場所などの情報を分かりやすく伝えられる案内表示を充実させる。



(7) 学びの場としての街路市 ◆子どもや学生の関わる機会を増やす

- ・お客様感謝事業の実施 (継続)
- ・出店体験の積極的な受け入れ

保育園や幼稚園の子どもを対象に、出店者組合と協力しながら、これまで実施してきたお客様感謝事業を引き続き実施するとともに、高校生や大学生が出店を体験する場を提供し、街路市に触れる機会を創ることにより、街路市への愛着を育む。



(8) 多様な連携によりつながる街路市 ◆街路市への関わりを増やす

NEW ホテル等の観光事業者との連携

拡充 イベント出店の積極的な受け入れ

国内外の観光客に対して、ホテル等が実施する街路市に関連したサービスについて、積極的な協力を行う。

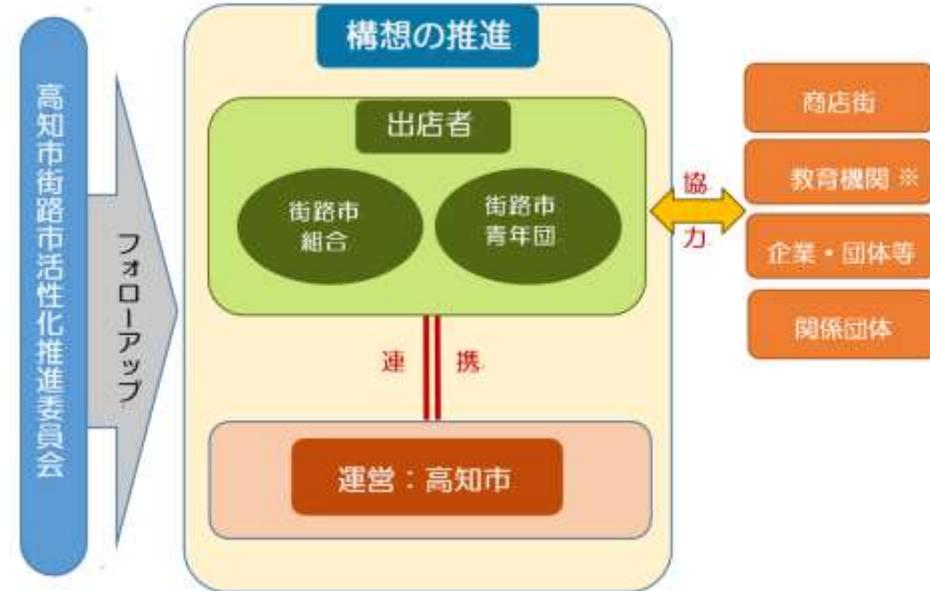
また、街路市において県・市の啓発イベントや県内事業者の新たな商品のPRをイベントスペース等でできるよう連携して取り組む。

高知市街路市活性化構想 概要版（案）

10 構想策定の推進体制

街路市の活性化を実現するため、出店者側と運営側を中心とした関係団体が相互に連携・協力を図る。

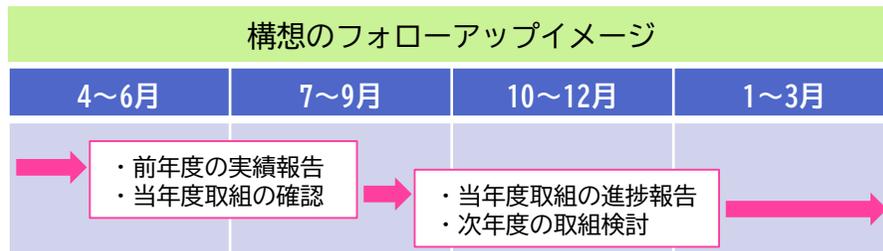
また、街路市活性化推進委員会が、構想の推進のためにフォローアップを行っていく。



※保育園、幼稚園、小・中・高校・大学・各種専門学校

11 構想のフォローアップ

次期構想では、街路市出店者からなる「高知市街路市運営協議会」において、取組の実施に向けた協議を行い、有識者で構成する「高知市街路市活性化推進委員会」において、取組の進捗管理や取組に対する意見を伺いながら進めていく。



12 構想における指標

構想における施策を着実に実行していくために、フォローアップを図りながら進めていく。検証・評価に当たっては、引き続き次の4つの指標を設定する。

	指標概要	従前値 (R6年度)	目標値 (R11年度)
指標1	日曜市内の通行量 (単位：人/4回合計)	73,291	80,000
指標2	出店登録者数 (単位：人)	391	400
指標3	地元利用者の割合 (単位：%)	27.3	35.0
指標4	県外客の日曜市に対する 「良い」印象 (単位：%)	91.5	95以上

指標3：日曜市利用者アンケートにおける県内在住者の割合により算出

指標4：日曜市利用者アンケートにおける県外客の中で、日曜市をお勧めしたいと回答した割合より算出

